

横浜市教育委員会 臨時会会議録

- 1 日 時 平成31年2月15日（金）午前10時00分
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席者 鯉淵教育長 大場委員 間野委員 宮内委員 中村委員 森委員
- 4 欠席者 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教育委員会臨時会議事日程

平成31年2月15日（金）午前10時00分

- 1 会議録の承認
- 2 一般報告・その他報告事項
教職員の働き方改革フォーラムについて
はまっ子未来カンパニープロジェクト学習発表会について
- 3 審議案件
教委第67号議案 横浜市学校保健審議会委員の任命について
教委第68号議案 平成30年度横浜市教育委員会表彰に係る被表彰者の追加決定について
教委第69号議案 教職員の人事について
- 4 その他

[開会時刻：午前10時00分]

鯉渕教育長

それでは、ただいまから、教育委員会臨時会を開会いたします。

初めに、会議録の承認を行います。1月21日の会議録の署名者は大場委員と間野委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正等を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉渕教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、2月1日の教育委員会定例会の会議録につきましては、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

小林教育次長

【一般報告】

1 市会関係

○2/8 本会議（第2日）一般議案上程・質疑・付託、予算上程・説明

○2/12 こども青少年・教育委員会

教育次長の小林です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、2月8日に本会議第2日目が開催され、一般議案上程・質疑・付託、予算上程・説明が行われました。

2月12日には、こども青少年・教育委員会が開催され、教育委員会関係の審査が行われました。議案として「横浜市立学校条例の一部改正」など、3件の審査が行われたほか、寄附受納について、報告をさせていただきました。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

○2/1 横浜市PTA連絡協議会創立70周年記念式典

○2/2 横浜市ESD推進コンソーシアム交流報告会

(2) 報告事項

○教職員の働き方改革フォーラムについて

○はまっ子未来カンパニープロジェクト学習発表会について

3 その他

○請願等報告（受理番号68、69、71～74 教科書採択に関する要望書）

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、2月1日に、横浜市PTA連絡協議会創立70周年記念式典が関内ホールで開催され、鯉渕教育長が出席し、挨拶いたしました。

2月2日には、横浜市立日枝小学校において、横浜市ESD推進コンソーシアム交流報告会が開催され、中村委員が出席いたしました。当日は、ESD推進校の児童・生徒や教職員等が参加し、各学校のESDの取組等をテーマに、児童・

生徒のポスターセッション形式による発表やワークショップ、教員のグループワークが実施されました。

次に、報告事項として、所管課から2点、報告させていただきます。

まず、1点目ですが、2月4日に開催されました、教職員の働き方改革フォーラムについて。2点目は、2月9日に開催されました、はまっ子未来カンパニープロジェクト学習発表会について、報告させていただきます。

私からの報告は以上です。

鯉淵教育長

報告が終了いたしました。何か御質問等はございますか。

中村委員

今、次長からお話がありましたESD推進コンソーシアム交流報告会に参加させていただきました。第1部の交流報告では、本当に子供たちが実際に体験したことを堂々と発表していきまして、広島大学からもわざわざこれが聞きたくて来ましてと言って、大学の先生方もいらしていました。横浜は進んでいますね、ということと、去年に比べてさらに進化していてすごいです、というお褒めの言葉をいただきました。

とてもいい発表だったのですが、少し場所が狭くて、隣のブースの音が聞こえてしまうということで聞き取りにくかったり、あるいは、やっている子供たちも発表しにくかったのではないかとということがありました。教育センターの設置ということはずっと言っていますけれども、こういう子供たちの発表の場を確保するという意味でも、ぜひ推進していきたいと思いました。

それから、ワークショップは各学校の子供たちが全部ばらばらになって、グループを作って話し合うということでした。SDGsの17の目標に向かってこれから何ができるかという話し合いでしたが、いろいろなグループを回っていったので、話が途切れ途切れになってしまうのですけれども、あるグループでは、私たちの学校では障害のある仲間ともとても仲良く遊んでいるというようなことを一人の子供が言いましたら、それを受けて、「それはとてもいいことだね。私のお母さんが働いている職場には障害のある人が一緒に働いているけれども、まだまだ奇異な目で見られることがあってつらい」という話もあって、「難しいね」という意見を言う生徒、それを受けてまた「僕の学校に車椅子バスケットの人が来たけれども、話を聞いたり、いろいろと見たりして、僕は障害のある人というのではなく、ただ車椅子に乗っているだけの人と思った」などと、子供たちが体験したことで意見をつなぎながら話をしていました。そして、その中で、「そうするとSDGsの目標10の『人や国の不平等をなくそう』につながっていくよね」とか、「目標16の『平和と公正を全ての人に』にもつながっていくのではないかと」と、体験をもとに17の目標をグループごとに構造化していくという話し合いで、見ていてやはり体験から出る言葉というのは、どこかからの借り物の言葉ではなく、本当に子供たちが自分の言葉として話しているなと思って、感心しました。

翌日はJICA横浜でも同じような発表があったのですが、子供たちが地域の方々や国連、あるいは企業の方々とながら、本当に学びが学校の中で閉じるだけではなく、社会に向かって広がっている姿を目の当たりに見て、とても素晴らしい取組だったと思いました。ぜひこういう取組を各学校に広げるとともに、委員会のほうも支援していただきたいと思いました。

以上です。

鯉淵教育長

ほかに何かございますか。

特になければ、次の教職員の働き方改革フォーラムについて、所管課から報告いたします。

小椋教育政策
推進等担当部
長

教育政策推進等担当部長の小椋です。よろしくお願いいいたします。

それでは、教職員の働き方改革フォーラムの開催についてですが、横浜市では、平成30年3月に策定をしました「教職員の働き方改革プラン」に基づきまして、様々な取組を進めております。その一環として、学校における働き方改革に取り組む意識を醸成するために、今回は株式会社セブン&アイ・ホールディングスの協力を得て、企業、大学、有識者、学校等による実践紹介等を通じて、学校における働き方改革について多面的な視点で考える機会とすることを目的にフォーラムを開催いたしました。

開催内容等につきまして、詳細は教育政策推進課担当課長より報告いたします。

島谷教育政策
推進課担当課
長

島谷です。よろしくお願いいいたします。

「2 開催概要」を御覧いただければと思います。2月4日月曜日14時30分から17時まで、約2時間30分行われました。会場は新横浜にあります株式会社セブン&アイ・ホールディングスの伊藤研修センターをお借りして開催いたしました。参加者は、市内の市立学校の教職員を中心に、教育委員の大場委員、中村委員、森委員にも来ていただきました。そのほか、他都市の教員・教育委員会から、遠くは熊本からも来ていただきました。そのほか、企業ですとか学生、横浜市の他部局の職員等、合わせて約200名が集まって開催いたしました。

プログラムの内容といたしまして、まず、オープニングで、NPO法人のROJ Eは教員志望の学生を多く含む学生団体になっておりまして、昨年850人規模の学校の多忙化を考えるイベントを主催している団体です。また、学校にボランティア派遣などをやっている団体になっておりまして、今回はこれを機にぜひ自分たちも学校のために動ければということで、いろいろな活動を御紹介いただきました。

それから、1つ目は事務局から来年度の「横浜市における働き方改革関連予算案について」の説明、そして2つ目として、「イトーヨーカ堂の働き方の変化」ということで、イトーヨーカ堂から御説明をいただきました。イトーヨーカ堂でも働き方改革を進めているという状況でしたが、これまで労務管理より営業を優先でずっと走り続けてきたけれども、今は生産性をしっかり重視して働き方改革を全社方針として最優先でやっていくというような取組の様子を御紹介いただいております。

そして、3つ目が学校提案ということで、北山田小学校、鴨居中学校の2校から具体的な取組の様子について、紹介してもらいました。北山田小学校は、教科分担制を1年生から導入しておりまして、そういったことを活用しながらうまく休養日を割り振るようなシステムを作っていたり、それからICTの活用、面白い取組として大人チャイムなどを鳴らして時間を意識した働き方を進めるというような様々な取組を進めている学校です。

それから、鴨居中学校は、民間のアドバイザーなども入れながら、学校の先生たちが自ら民間企業にも出向いて、どんなことが学校として取り入れられるかということを探し、前向きに取り組んでいる学校です。前例踏襲はもうしないと。変えるところはしっかり変えていくというようなスタイルで、学校改革の一つとして働き方改革をやっているというような取組を紹介いただきました。

それから、4つ目は睡眠というものの大切さを科学的に教職員労務課からプレゼンをいたしました。そして、5つ目に基調講演として、「学校の働き方改革の先にあるもの」と題して、中央教育審議会働き方改革特別部会委員でもある妹尾先生に御講演いただいております。そして、立教大学と教職員育成課で共同研究を進めておりますが、「持続可能な働き方プロジェクト」の現在の状況等について、説明をしたというようなものがプログラムの全内容になっております。

最後に、次のページになりますが、フォーラム参加者からいろいろな意見をアンケートでいただいておりますので、一部御紹介したいと思います。

まず、管理職です。1つ目ですが、「目指すべき組織像を明確に持って推進にあたりたい。『全ては子どもたちのために』は当たり前として、あえてその中でもプライオリティーをつけていくことが大切だと分かった」。それから、2つ目ですが、「学校の規模や教職員によって働き方改革の進め方が違うと思うが、やはり管理職がみずから進んでリーダーシップをとり、取り組まなければ実現されていかないものだと強く思う」。そして、3つ目です。今回はいろいろなプログラムで構成しておりますので、そのお話ですけれども、「ショートコンテンツが多くあり、全体としてつながっている、という形式に刺激を受けた。『働き方改革に特効薬はない』という言葉が印象的で、できることからどんどん取り組むことも必要だと思う。まず、『何で？何を目指して？』をもう一度考え、そのような気持ちになって学校に戻ることができる」というような意見がございました。

それから、下半分は教員の先生方からいただいております。今回の参加者は主幹教諭クラスの先生方の参加が多かったです。まず1つ目ですが、「職場の仲間と同じ方向を向き、思いを共有しながら環境を良くしていきたい。管理職だけに任せるのではなく、自分たちで1つずつ変えていきたい。もっとできることがあると感じた」というご意見です。2つ目です。「どの発表もワクワクしながら拝聴した。出来そうなことの枠が大きく広がり、この流れに乗ることが大事」。3つ目、「仕事が見える化し、『負担VS効果』を考えて優先順位を決めていきたい」。そして4つ目も御紹介しますが、「本校でも取組みを進めてきているが、働き方改革の先にあるものの共有（何のための働き方改革なのか）が大事で、本校はそこが弱いのかなと感じました。改めて職場で意見を出し合っていく必要がある。提案にあった『働き方改革に特効薬は無い』と教えていただいたように、本校に合った改革を進めていきたい。そうは言っても、学校だけでは限界があり、文科省や教育委員会、保護者や地域にも思いを伝え、一緒に改革が進めていけるよう知恵を出し合っていきたい」というような御意見がございました。

そして、最後に次のページですが、学校事務職員にもたくさんおいでいただきました。まず1つ目ですが、「本日の研修でもあった通り、『働き方改革』が教員の『生き方改革』になり、ひいてはそれが子どもへの『教育の質の向上』につながるのであるという論理的解釈を、共通認識としていくことがこれからも必要だと思う」。それから2つ目ですが「まずは学校内で働き方改革の意義と目指すべき姿を共有し、教職員全体で共感することが必要だと感じた。学校で取組を考えるためのヒントとエネルギーをもらった」ということで、一部だけですが、こういった御意見がございました。

以下の写真は会場の様子などを付けておりますので、御参考までに見ていただければと思います。私からの報告は以上になります。

鯉淵教育長

説明が終了しましたが、何か御質問、また参加していただいた委員から御感想などがありましたら、どうぞおっしゃってください。

森委員

御報告をありがとうございます。こちらのフォーラムに参加させていただきまして、大変興味深くいろいろな発表を聞かせていただきました。学校だけで子供たちを育むのではなくて、いろいろな方と一緒にチームでコーディネートしながらということが大事だという話は、過去のここでの議論でもありましたが、とはいえ先生の手時間がなくなるとか、先生はただでさえ忙しいということも現実としてはあったかと思えます。でも、本来、先生がやる業務として、子供と向き合う時間を作ったり、いろいろな新しいことに挑戦するためには、働き方改革が本当に肝だということで、来年度はいろいろな取組をするという発表が冒頭にあって、そこにやはり力を注いでいくことはとても大事だということを感じました。特に来年は全小学校・中学校に職員室の業務アシスタントを配置するというので、実際に既に配置されたところでは子供と向き合う時間が1.5倍に増えたというような具体の発表もありましたので、そこはすごく効果があるのだろうということも再確認いたしました。あとは中学校の部活動支援でも、外部指導者の派遣を、平成30年度は55人だったところを平成31年度は180人にするということで、そこでも大きな変化が見られると良いなと思えます。

実際に専門の先生の講座などもこの中の発表にございましたが、非常に印象に残っていたのが、今やっていることというのは全て大事なことをやっている。無駄を省けと言っても、無駄は現場にはもう既がないぐらい、いろいろと現場では努力されてきていると思うけれども、ただ何が邪魔しているかとか、何が難しさを生んでいるかという、全部に教育効果があるから難しさがあるという話をされていまして。これは温泉に例えて考えると良いとお話をされていて、例えば、とある町にAという温泉があって、これは肌に良いとか、Bという温泉があって、これは健康に良いとか、Cという温泉があって、これは足に良いとか、そういったどの温泉であっても効用があり、それは大事なことのだけれども、全てに入るとのぼせてしまうというとても良い例えを用いられながらお話をされていまして。

実際に何かをやめようとする、これをやめてしまうのですかというような声ですとか、楽しみにしている子供たちがかわいそうということですか、やらないよりやったほうが良いですよという声も、先生方の中だったり、保護者の皆さんからもあるので、なかなかやめられないというような現場の御苦労の話もありました。でも、だからこそ、例えば運動会は何のためにやるのか、修学旅行は本当に修学になっているのか、進路指導というけれども本当に指導するものなのだろうかという、そういった根本から各現場でそれは何のためかと問うことが大事だというメッセージがありまして、なかなかトップダウンでやるのが難しいことも、こうやって現場の中で問うことから、同時に両輪でやっていけたらということを感じました。

今年度はいろいろな取組で見える化したり、なかなか効果はすぐに出ないと思いますが、働き方、先生方の時間を生むような取組というのは来年度も引き続き力を入れてやっていかなければならないと実感したフォーラムでした。ありがとうございます。

鯉淵教育長

ほかにいらっしゃいますか。

中村委員

よろしいですか。先ほど課長からお話ございましたが、各学校の取組で面白いと思ったのが、北山田小学校の職員室チャイムのお話です。誰しもそうだと思いますが、夢中になればなるほど時間を忘れてしまうので、そこで4時30分と6時30分でしたか、2回鳴らすというお話がありまして、はっと、もうそんな時

間になったと意識付けをするという意味で面白い取組だと思いました。それも誰かがやるというのではなくて、自動でセッティングして毎日鳴らしているということで、はっと思わせるという意味で面白い取組だと思いました。

それから、鴨居中学校のほうも先ほどの学校独自として教え子とのネットワークを使って企業研修をやるというのはなかなか面白いと思ったことと、あと校長先生が眉間にしわを寄せて考えるのではなくて、みんなで学校を楽しくしよう、学校を元気にしようということで、ボトムアップ型で非常にみんなのアイデアを募りながらやっているところがとてもいいのではないかと思います。もちろん校長のリーダーシップというのはすごく必要ですが、上から下ろすというだけではなくて、みんなで子供たちのために学校を元気にしていこうという姿勢はとても大事だと思いました。

それから、ここにいる皆さんは多分睡眠時間が4時間とか5時間とかで頑張っていると思いますが、改めて睡眠の大切さということで、15時間連続して働いたら飲酒運転と同じぐらいですよ。血中アルコール濃度が0.03%と同じぐらい、判断力が鈍るというお話がありました。つい頑張ってしまうのですが、本当にその頑張っていることが実質的な判断をしたり、何かを創造したりというところにつながっているのかという意味で、そういうデータを出してのお話というのはとても説得力があったと思いました。

とてもお話が多岐にわたって、とても濃い時間で、この中にぎゅっと凝縮されていて、もう少しゆっくり一つ一つのお話を聞きたいと思う面もありましたが、感想にもありましたように、やはり一度立ち止まって、自分たちの働き方を考えるとか、本当に今の働き方が教育の質の向上につながっているのだろうかとか、そういうことを改めて意識化するいい機会になったと思いました。

以上です。

鯉渕教育長

ほかに。

大場委員

森委員や中村委員と少しかぶる点がありますが、私の感想です。教育委員会がどんどん主導して働き方改革をやっていくということももちろん大きなリーダーシップを取らなければいけません、やはり推進校の人たちが自分たちの事例をどんどん現場から発信してもらおうということが裾野を広げていく上で一番大事な点ではないかと思って、北山田小学校や鴨居中学校の件を拝見していました。

それから、今、中村委員が言われたとおり、ショートコンテンツにつながっていて、非常に私の年齢からしては多くの内容をこなすのに少し無理があったのですが、一つ記憶に残ったのは、別の職場で話をしたのですけれども、先生方は、長時間、精いっぱい働くことをいとわずに、全ては子供のためにとということでやるのですが、長時間労働をすることによるマイナス面をみずから見つけていかなければいけません。どなたが言われたか覚えていませんが、たしか人間が生きていく上で3つの大事なことがあると言われて、本を読むこと、それから旅に出ること、現場を出ること、それと職場の内外で多くの人と会うこと、この3つをこなせばより教育に対する情熱・思いも高まっていくので、この3つをやるためには長時間労働をしているわけにはいかなくなってしまうから、よりさらに効率的な仕事の仕方というのが出てくるのではないかと思います。これは教員の世界だけでなく、ほかの職場にも通用する話かと思って、私にとっても収穫の材料になりましたので、御報告だけさせていただきます。

以上です。

鯉淵教育長

よろしいでしょうか。

宮内委員

私は出席しておりませんが、今のお話、またこのアンケートを見るに、非常に充実したフォーラムとの印象です。こういったフォーラムは時としてアリバイ工作であったり、形式的なものになりがちですが、今、3人の委員のお話から推察するに、随分率直な問題提起がなされていると思いました。教育委員会と学校現場は、それぞれ役割が違います。その教育委員会と学校現場をつなぐこと、これは教育委員会が行政機能としてやらなければいけないことでありますので、ぜひこういった仕掛けは作っていただきたいと思います。学校現場においてはプライドを持って物事をタイムリーに判断し、現場感覚を持って考える人たちが増えていく、これが学校のあるべき姿です。しかし、実際はなかなか不具合があつてうまくいかないということを、こういった機会を通じて行政、教育委員会のほうが酌み取り、制度化し、予算化するという行為をしなければいけないのだと思います。

そこで、今出ていた中で、すぐ制度化したらいいのではないかと考えているのは、人手不足であるというのは、どこの学校に行っても、特に小学校は深刻な問題です。事務の専任を就けた、これは大きな進化です。また、インクルーシブ教育といっても、専門の人がいない中でインクルーシブ、インクルーシブでいくと混乱ばかり招いてしまっています。こんな無責任な話はありません。では、どうしたらいいのか、私の提案は、先ほど出ていた北山田小学校の教科専任制にするということです。小学校で担任制度をやめて専任制にし、学年で数クラスを数人の人たちが複眼で見えていくと、一人の先生が急に風邪を引いて来られなくなった、子供が急病になったとなっても、お互いに補うこともできます。そればかりでなく、先生と生徒というのは相性がありますので、当たり外れがあります。そういった悪いことへの対応策にもなりますし、働き方改革の一助となるのではないかと考えていますので、こういった提案は行政としてできるところから取り入れていったらいいと思います。

それから、足りないことも事実だけれども、定年退職された優秀な教員の方たちをプールしておいて、代理が必要になるというのは緊急のときなので、朝の5時とか6時とかに子供の具合が悪くなったとき、そういうときにタクシーのUber（ウーバー）というサービスのようにはスマホで呼べる、教員Uberのような、現実に即してすぐに対応できるような仕組みも教育委員会でもできることだろうと思います。今までの形ではないことを考えると。もちろん人を採用し、正職員としての人材層を集めていくというのは基本ですが、すぐに実現できることではありません。ということで、行政としてできることを一つ一つやっていったらいいのではないかと思います。非常にいい企画だったと思います。

間野委員

フォーラムも含めて、今年の年度当初から比べると確実に教職員の時間外労働が減っているということをお大変好ましく思っています。今度2年目に入るわけでありまして、さらに増員もして、多分学校現場でも、また、さらに効果が出てくると思いますが、一方で教育委員会事務局、関内も含めて方面別事務所の実態がどうなっているのか、私はよくわかりません。そちらの働き方改革もやはり並行してやっていく必要があるのではないかと思います。そんな取組もぜひやっていただきたいと思います。特に経営責任職の皆さんが働き方を変えないと、部下も働き方を変えづらいので、事務局レベルでも全体として、学校現場だけではなくて働き方改革を進めていく必要があるのではないかと思います。

以上です。

鯉渕教育長	よろしいでしょうか。それでは、特になければ、はまっ子未来カンパニープロジェクト学習発表会について、所管課から報告いたします。
直井指導部長	<p>指導部長の直井でございます。</p> <p>はまっ子未来カンパニープロジェクト学習発表会が先週の2月9日土曜日、雪の舞う大変寒い日で、子供たちの集合や解散が心配になるようなお天気でしたが、本当に元気に学びをプレゼンしてくれました。</p> <p>詳細につきましては、所管の指導企画課長より説明させていただきます。</p>
宮城指導企画課長	<p>指導企画課長の宮城でございます。</p> <p>横浜市では、子供たちが未来を生きていく力をつけるために、学校と社会が丸となった横浜らしいキャリア教育、これを本市では「自分づくり教育」と呼んでおりますが、このキャリア教育に取り組んでおります。平成28年度から、学校と企業・地域等の外部機関の連携の下、子供たちが自分たちで社会課題を解決する「はまっ子未来カンパニープロジェクト」を開始し、3年目となる平成30年度は、33校が参加しております。今回、この中で9校がこれまでの取組の成果を発表する学習発表会を開催いたしましたので、報告させていただきます。</p> <p>開催概要にありますように、先ほど部長からもあった2月9日土曜日、神奈川区民文化センターで小学校9校の発表がございました。参加人数は、児童、保護者、連携機関の皆さんを含めて262名でございました。</p> <p>裏面を御覧ください。発表校と連携機関・取組内容を一覧にしたものでございます。部門としまして、商品開発・販売等部門、学校貢献部門、地域貢献部門の3つがございます。</p> <p>次のページからはこのプロジェクトに参加した各学校の取組を、こちらの冊子は当日の学習発表会用に作ったものですが、33校の取組をまとめた冊子の中から今回、発表してくれた9校のページを抜粋して印刷させていただいたものです。</p> <p>まず、1ページですが、潮田小学校は6年生が鶴見区という地域の特性を生かしたパンの商品開発をすることを通して、ものづくりや仕事、働くということについて考えていく取組を発表してくれました。1ページの下の方に連携していただいた企業の方のコメントがございます。2行目の「今回のように子どもたちの意見を聞きながら商品開発をする事は初めてで、授業のたびに子どもたちの発想に驚かされる事が多々ありました」というようなことでコメントをいただいております。</p> <p>続きまして、2ページ、日枝小学校では3年生が地元の和菓子屋さんの店主の方との出会いから、目玉商品の「粒餡最中」づくりに取り組んで、ものづくりを考えていく取組を発表してくれました。2ページの上の枠の最初にございますが、社会科の「まちたんけん」で町に子供たちが出ていったときに、ほのかに甘さが漂う香りに誘われて、弥太郎最中本舗さんに子供たちが吸い込まれるようにして入っていきました。それがきっかけとなって、この活動が始まったとのこと。下の枠には店主の方の声がございます。一番上のほうにありますが、「最初は、興味本位で和菓子を作るのかなとも思いましたが、子どもたちも先生もとても熱心で驚きました」というコメントをいただいております。</p> <p>続きまして、3ページを御覧ください。汐見台小学校では、建て替え予定の校舎を下級生たちに伝えるために、アルバムを作成することを通して、自分たちの学校を見つめ直していくという取組を発表してくれました。資料3ページの下は、プロの写真家の方からのメッセージになります。中段から下ですが、「校舎や自然などの様々な思い出の場所を6年間通った児童たちならではの視点で写真</p>

を撮っていて、写真に「メッセージ」と「意図」が表れていたのが良かったと思います」というコメントをいただいております。

続きまして、4ページを御覧ください。一本松小学校では、5年生がオリンピック・パラリンピックについて調べたり、ボッチャという競技を体験したりして、スポーツを通して地域の方との関わりを進めていくという取組を発表してくれました。4ページの一番上は活動のきっかけですが、オリンピック・パラリンピックのことをもっと知って、みんなで力を合わせて学校や地域の人に広めていきたいという思いを持ち、活動が始まったということです。

5ページを御覧ください。浅間台小学校では、4年生が地域の産業である捺染業について知り、バンダナ作りを通して学校や地域の良さについて考えていく取組を発表してくれました。資料5ページの左上に吹き出しがございます。この4年生は3年生のときにも同様の活動をしておりまして、3年生では地域とつながるサイダー「hands to hands サイダー」のラベルを作ったり、開発した商品を販売する取組をしていて、4年生になってから、今年も地域とつながりを深めたいということから、今回は「ギルダ横濱さんという手ぬぐいを作るお仕事をする人が地域に住んでいるんだって」ということで、一緒に何か関われないかということからこの活動が始まりました。

続きまして、6ページを御覧ください。南山田小学校では、6年生が学区内に拠点を置く影絵劇団の方から教えていただいた影絵を通して、自分たちの成長や感謝の思いをお世話になった方へ伝えていくという取組を発表してくれました。資料6ページの上の取組内容の1行目でございますが、小学校最後の総合の時間で、みんなで一体感や達成感を感じられるものにしたい、自分たちの成長や感謝の思いをお世話になった人たちに伝えたい、そのようなことから影絵の取組が始まりました。下には劇団の方のメッセージをいただいております。2行目でございますが、「子どもたちに自宅近くにそのような劇団があるという事を知ってもらえる機会をいただいた事は大きな喜びであります」ということで、その後も学校のほうにずっと関わっていただいております。

7ページを御覧ください。新治小学校では、4年生が新治市民の森や梅田川の自然に触れ、愛護会の方と関わりながら、自分たちの町の自然を未来にも残していくために、自分たちに何ができるかを考えていく取組発表してくれました。7ページの上の四角い枠の最後になりますが、このすばらしい環境を守り、未来にも残していけるようにするために自分たちができることを考えたということで、幾つもの取組が行われております。中段でございます「子どもたちの振り返りから」の欄でも、「生き物がたくさん住む梅田川がずっと続いてほしい」、あるいは「梅田川はきれいだから、たくさん生き物がみつかるね」というような様々な発見を子供たちもすることができました。

続きまして、8ページを御覧ください。能見台小学校では、オリンピック・パラリンピックについて知り、ブラインドサッカーの競技を体験しながら、2020年に向けて学校全体を盛り上げていく活動を展開していくという取組を発表してくれました。8ページの上の吹き出しの2行目でございますように、「オリパラに興味をもち始め、自分たちの力で2020年に向けて学校全体を盛り上げていきたいという気持ちを強くもつようになりました」という声があります。中段の吹き出しには学んだことが書かれております。4行目に「2回目の交流では、実際にアイマスクを付けての体験会を行いました。見えないことの難しさを体験するとともに、仲間と声を掛け合うことの大切さ、相手の立場を考えること、思いやることの大切さに気付くことができました」という学んだ内容が書かれております。

9ページを御覧ください。六つ川小学校では、養蜂活動を通して蜂蜜やものづ

くりについて学び、これまでお世話になった地域の方へ感謝の気持ちを伝えたり、地域の自然環境について考えていく取組を発表してくれました。9ページの上にありますように、これまで育てていただいた地域の方々、保護者の方に感謝の気持ちを伝えたい、地域の自然環境や命の大切さについて学びたい、そんな思いから始まった養蜂活動だそうです。真ん中あたりの四角い枠の下ですが、「いつの間にかミツバチを見ると、「怖い」から「かわいい」に変わっていた」というような感想、最後のほうには「自分たちが活動を通して学んだこと、六ツ川という地域のすばらしさ、そしてこれまでの感謝を伝えました」ということで、記録を結んでおります。

各学校はステージ上でこれらのプレゼンテーションを行ったのですが、テレビ番組形式やクイズ形式の発表、それから他の学校の友達への発信という相手意識を明確にした発表からは、プレゼンテーションの能力の高さも感じる事ができました。これらの活動を通して子供たちが身に付けた力としましては、失敗を次へのチャンスと考え、ステップアップへの良い機会と変えていくチャレンジ精神、目標に向かって柔軟に対応しながら行動し続ける実行力、アイデアを組み合わせる創造性、相手の考えを理解しつつ一緒に物事を進める協働性などが挙げられます。

発表の中では、取組の振り返りについても触れられていて、活動していく中で自分と友達の考えが違ったときに折り合いを付けるのが大変だったというような子供たちの声も聞かれました。当日、子供たちの発表が終わった後に、長島前教育委員とこども青少年局の金子課長に各学校の取組についてのコメントをいただきました。御講評をいただきました。また、筑波大学の藤田教授には、全体の御講評をいただきました。

報告は以上でございます。

鯉淵教育長

説明が終了いたしました。何か御質問等がありますか。

一言だけ。とても面白かったですということが一つと、それから関わってくださった企業、地域、あと福祉系団体の皆さんがとても喜んでいたと思います。あと、内容そのものは今、宮城指導企画課長が説明したとおりでありますが、子供たちがここまで深掘りできるのだなというのを大変面白く聞かせていただきました。

以上です。

森委員

御報告ありがとうございます。

行けずに大変残念でしたが、すごく良い学習発表会だったことが御報告から感じました。すごく多様で、日頃の授業の延長線上にある取組もあれば、連携先のいろいろな資源を中心に作られていくものもあって、それはコピーしてペーストできるようなものではないと思うので、こうやって多様なものが生まれていることはすごく良いことだと思いましたし、6年2組という単位であったり、3年生という学年単位であったり、学校単位であったりといういろいろな形があるということも現場から生まれたならでは取組だと思いました。ただ授業をするよりすごく大変だと思いますが、子供たちがそこから学びたいことを見つけたり、知りたいことが生まれたりしているのだろうということも感じますので、これがもっといろいろな学校でもできるといいなと思いながら聞いていました。

幾つか質問をさせていただければと思います。3年目で33校とありましたけれども、今後はどのような、増やしていくだったり、展開というのがあったのか、以前御説明いただいたかもしれませんが、もしできましたらそれを教えていただければと思ったのが1点です。あと、学校と連携してくださる皆様は、それぞれ

どういった方式で応募だったり手挙げだったり、参加の方法だったかということをお話しいただけたらと思います。というのも、今後いろいろな学校でこういったことをやっていくときに、これがうまくいった事例の発表でもあったと思うのですが、うまくいった理由は何だったのか、一つ一つ見ていくことは大事なことになるだろうと思います。きっとこの先生がいたからとか、この学校長だったからとか、この地域の方がいたからとか、けっこう属人的な要素も非常に多いのではないかと思います。その要素がない場合に展開できないというのだと、それとてももったいないことだと思うので、何がキーだったのかというようなことも、3年もたったので、今後はうまくいった事例の要素、反対にうまくいかなかったところの課題を振り返ると良いのではないかと思います。あと、もしできたら、企業側からのことも、連携される地域の団体側からの課題のようなことも出ているようでしたら、きっとご負担もあったと思います。すごくうれしかったという話もあったと思うので、役に立てたということが関わる皆さんにとっても喜ばしいだろうと思いますが、もし課題が上がっているようでしたら、それも教えていただければと思います。すみません。幾つも質問してしまいました。

宮城指導企画
課長

指導企画課長の宮城でございます。ここにありますのは33校ですが、全部で50の取組です。これは「はまっ子未来カンパニープロジェクト」に参加した学校と取組数です。これ以外にも総合的な学習の時間、横浜の時間の中でたくさんの取組をやっておりまして、参加していなくても横浜市立小学校・中学校では多くの取組が行われております。回数は3回目ですが、参加校数と取組数は3年で増えておりますので、また今後も続けていく場合にはさらに多くの学校の参加と取組が全市に発信できるのではないかと考えております。

それから、企業とのマッチングですが、学校がみずから企業を見つけてきたり、関係団体、あるいは地元のお店等と関わっていく場合もありますし、それからこの授業を教育委員会事務局としても多くの企業さん、団体さんに働きかけたりして、名簿というのでしょうか、幾つかの企業のものがありまして、それを学校が見て、ここと何か連携できないかということもやっております。

それから、実際にその中ではやってみただけでもなかなかマッチングがうまくいかなくて、企業側もこれはできないということになったらはっきり言っていただいて、また次の関係機関と連携していくことを考えていく学校もございました。うまくいくキーとしては、学校が企業と実際に取り組みながら、子供たちも壁にぶつかりますが、関係団体、連携される方々も次はどう進めていったら子供の力をつけられるのだろうということを、学習を進めながら考えていただけたらということの良さがある、先ほどもおっしゃったように、型が決まっていそこに乗っていくものではありませんから、企業の方にも様々な視点で御協力いただいて、取組がなされております。

課題としましては、1年間やってその学級や学年と関わって、企業もすごく良かったと思いますが、翌年必ずしも声がかかるとは限らないということもあって、せっかく去年取り組んだのに今年は声がかからないのかなと思っていらっしゃる連携機関の方もいらっしゃいます。それから逆に、浅間台小学校のように去年もやったから、次は同じ企業ではなくて別のところと関わりたいと発展していく例もございます。

鯉淵教育長

よろしいでしょうか。

中村委員

ありがとうございました。当日は行けなかったのですが、夜の t v k のテレビ番組で拝見しました。企業の方の感想で「自分で考え、それを形にする楽しさをこれからも続けていってください」と書いてありますが、まさにそういう子供たちの姿が見えて、本当にここにこしながら見てしまいました。今、課長が言われたように、総合的な学習の時間でずっと取り組んできていますよね。ですから、学校ごとでかなり地域の人だったり、お店だったり、工場だったり、そういう資源的なものの開発は進んできていると思います。その中で、本当にありがたいと思うのは、子供たちも本気ですが、関わってくださる方たちも、子供だからまあまあという形ではなく、本気でだめなものはだめ、これでは伝わらないでしょうとか、結構厳しい意見も言ってくださって、本当に子供の力を伸ばすことに力を貸してくださっていることをありがたく思っています。

やはり自分の学校だけで開拓していると、非常に限りがあります。それから、ある場合は最近地元の商店街の元気がなくなってきたから、その手助けができないかという提案を子供たちがしたときに、商店街のほうから、このままでいいから手を出さないでくれと言われてしまうような例もあって、行き詰まってしまう場合もあるので、教育委員会のほうで協力してくださる名簿のストックはとても必要なことではないかと思えますし、子供たちの可能性も広がっていくのではないかと思います。

先ほどのコンソーシアムもそうですが、本当に子供たちがいろいろな方と連携しながら学びを広げていって、しかもそれが本当にこれから社会に出たときに生きる力につながっているということを実感するような、そういう発表会や報告会という位置付けができていて、ぜひ活性化を進めていっていただきたいと思えます。

以上です。

鯉渕教育長

よろしいでしょうか。

間野委員

非常にいい取組だと思います。ここに出ている33校以外にも広がっているということで、多分これからもっと広がるのではないかと思います。別の言い方をすると、子供の学び方改革でもあって、教員の働き方改革と子供の学び方改革は両輪だと僕は思います。新たに生まれた時間を子供が何にどうやって使って学んでいくのかということで、今はまだ学校教育の文脈の中にありますが、もっと社会教育、アウトソーシングというか、そちらの仕組みにしていけないか。やればやるほどまた教員の負担が増えるのだと逆説的になりますので、教員も一部関わりながらも、地域社会の中でこういう機会を用意していただくような方向、例えば学校運営協議会とか、PTAとかを巻き込みながら、学校外で、教員がいないところで学ぶということも子供にとっては大事だと思います。先生がいつも見守る中で何かをするのではなく、そのような仕組みになると、本当に学校教育と社会教育が両輪でうまく回っていきましますし、教員の働き方改革と子供の学び方改革がリンクしていくのではないかと思います。そういう種ができてきたので、ぜひそういう方向で、学校でどんどん抱え込むのではなく、外にうまく出してつないでいくような施策を作ったらいいのではないかと思います。

以上です。

鯉渕教育長

よろしいでしょうか。それでは、次に議事日程に従い、審議案件に移ります。

まず、会議の非公開について、お諮りします。教委第67号議案「横浜市学校保健審議会委員の任命について」、教委第69号議案「教職員の人事について」は、

人事案件のため、教委第68号議案「平成30年度横浜市教育委員会表彰に係る被表彰者の追加決定について」は、個人情報を含む案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉渕教育長

それでは、教委第67号議案から教委第69号議案は、非公開といたします。審議に入る前に、事務局から、報告をお願いします。

山岸総務課長

事務局から御報告いたします。

2月1日に個人の方1名から、2月4日に個人の方5名から、2月5日に個人の方2名から、2月6日に個人の方11名から、2月8日に個人の方5名から、2月12日に個人の方8名から、2月13日に個人の方3名から、2月14日に個人の方2名から、市立北綱島特別支援学校に関する要望書が提出されました。2月5日に個人の方1名から、2月7日に1団体から、日の丸・君が代等に関する要望書が提出されました。2月13日に1団体から、中和田小学校の体育館の改築を求める要望書が提出されました。こちらの要望書につきましては、事務局で対応を調整の上、教育委員会で審議が必要な場合は、次回以降にお諮りしたいと思いません。委員の皆様は、内容のご確認をお願いします。

次回の教育委員会定例会は、3月1日金曜日の午後2時から開催する予定です。また、次回の教育委員会臨時会は、3月11日月曜日の午後2時から開催する予定です。

以上です。

鯉渕教育長

皆様、よろしいでしょうか。次回の教育委員会定例会は3月1日金曜日の午後2時から開催する予定です。また、次回の教育委員会臨時会は3月11日月曜日の午後2時から開催する予定です。別途、通知しますので御確認ください。

次に、非公開案件の審議に移ります。傍聴の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も退席してください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

教委第67号議案 「横浜市学校保健審議会委員の任命について」
(原案のとおり承認)

教委第68号議案 「平成30年度横浜市教育委員会表彰に係る被表彰者の追加決定について」
(原案のとおり承認)

教委第69号議案 「教職員の人事について」
(原案のとおり承認)

鯉渕教育長

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会臨時会を閉会といたします。

[閉会時刻：午前11時17分]